

ぼんしょう      さいしょうじ  
梵鐘（西照寺）

種 別	小松市指定文化財 工芸品
指定年月日	昭和52年11月2日
所 在 地	大川町（西照寺）

西照寺は、蓮如上人の弟子であった教明の開基による真宗大谷派の古刹である。16世紀代に越前の吉崎から江沼郡弓波、さらに小松町八日市へと移った。江戸時代初期、西照時三代賢祐の時に一時小寺町へ移転したが、正保2年（1645）に泥町（現在の<sup>いもじ</sup>大川町）の現在地へ移った。それから約40年後の貞享元年（1684）に本堂が修復され、梵鐘もこのとき<sup>いもじ</sup>鑄造された。鑄物師は、金沢の平井但馬守家長・秋山仕兵衛尉家次である。

この梵鐘の寄進者は、泥町（現大川町）の越前屋七郎右衛門（<sup>つづみかんしょう</sup>堤 歡生）である。歡生は、小松天満宮別当も務めた連歌師・能順の門下生であり、能順の没後はその遺稿をまとめ「<sup>れんぎよくしゅう</sup>聯玉集」を出版した。また松尾芭蕉からは俳諧を学び、芭蕉が小松を訪れた際には、句会を開催し手厚くもてなしている。

銘文は、浅井了意の撰文である。浅井了意は、仏書・小説・随筆など、その著作は多岐に渡り、600に及ぶ著作を出している。

願主、銘の撰文者とも歴史上・文学史上著名な人物であり、梵鐘の造形とともに貴重なものである。

